

# 2011 Milk Hall Times 174th

## COLUMN

### 鎌倉の猫事情

特別編

海まで徒歩五分の道ぞいにオカメヅタにおおわれた少しくたびれた家がある。ときどき観光客の一団が立ちどまって不思議そうに見上げている。やはり風変わりなのかしら。

家のぐるりにプランターがおかげでいて、いろいろな花が咲きほころぶ。五月のツルバラ、夏の終わりにユウガオ、冬の日のパンジーは風が吹くと同じ顔してユラユラゆれる。

うすぐらい家のなかをのぞくと奥の方にへんな機械が見える。

銅版画と石版画の古いプレス機だ。鴨居から鴨居へいく條もの針金が張られて、そこに洗濯バサミでとめられた刷りあがったばかりの版画がたくさん吊られている。なんだか室内工業の様相。

この家のあるじは絵描きなのだ。黄色い帽子をかぶって海の見える保育園に通うムスメは五歳。オクさんは毎日ジョウロで花に水をやっている。つましやかな暮らしだが、男はこうして家族にかこまれて絵を描いていることに生き甲斐をもち、少しも不遇とか辛いと思ったことはない。そんなある日、家の前にネコのマークのついた宅急便の車がとまって、美しい女性の配達員がおりてきた。胸のところで腕を十文字にかさねて、ちっちゃなネコを抱いている。「はい、プレゼント」そういうえばいつぞや、そんな約束をしたつけ。美しい配達員は職業柄町内の事情にくわしくて、どこぞのネコが仔をうむといっていた。

あどけない顔、つぶらな瞳、そして鼻の下の黒い斑点が目立つ。それがちょうど威厳のあるフランス人の口ひげのように見えて、名前は躊躇なくムッシュウになった。

ムッシュウがミルクを飲むとムスメも床に頭をつけてのぞく。ムッシュウが走り出せばムスメが後をおう。男も肩にのせてあそんだ。

こうしてたちまち一家に笑いとやさしい気持ちをもたらした。

あの日から五年。ムスメは小学四年生。ムッシュウも立派なオスネコに成長した。世の中の風にふかれ、巷の雨にうたれ、すいもあまいも知つて少々のことでは動じない。そしてアトリエのすみに座って男が仕事をしている様子をじっとながめている。

その時フト男はムスメとムッシュウの肖像画を描いてみたくなったのだ。なに気なく贈られた仔ネコが今や家族の一員として欠かせないほど重要な存在となっていると思えたからだ。

完成したらいつかムスメにこの絵を贈り物としてやろう。



そんな機会がかならずくるはずだ。

やがて月日は流れて男はもうこの世にいない。

ムスメも孫をもつ歳になっている。

だが彼女の座るうしろの壁には、この絵がかかっている。

そしてたまに絵に目をやり、チラッと思い出すのだ。

宇宙の悠久の時の流れからみれば、ほんの一瞬でしかなかったが、かつて男たち親子三人が楽しく暮らした時間を。

ささめやゆき「ほんとうらしく うそらしく」より  
最後の章『フェリコとムッシュウ』



## Planet

この非常時に、ミルクホールタイムス174号を発行するにあたり、何を書いたらよいかわからず、次々に流れ来る悲しい悲しいニュースと、続く余震と計画停電の中、おろおろし、ただ途方にくれていました。

その時に心に浮かんだのが、裏面にもご紹介しているささめやゆきさんでした。

共に鎌倉に住むご縁が、初めは看板、次はムスメさん、そして共に家族にネコがいること、いろいろつながって、長年親しくさせて頂いています。絵にも、本にもあらわれている通り、ささめやさんは、心やさしくて、会ってお話すると本当に心やすらぐ方です。けれど、一方でやさしいけれど、厳しい方だと思うのです。ですから、会ってお話すると、心やすらぐ一方で、ああ、いい加減なことをしていたいけないと、いつも思うのです。

沢山の著書には、絵とともにささめやさんの文が載っています。それは、いつも旅…家族や、ネコや、人を描きながら、いつも旅をしている、と、感じます。その旅する目は、愛情に満ちながら、厳しさをもって人としての孤独な戦いをされていると感じます。

人は皆、ひとり、人生という道を歩いていく旅人です。

その旅の途中突然に、皆が今まで誰も想像していなかったような苦しい道に突き出されてしまったような気がしています。

どうしたらよいか何もわからないけれど、この旅路を、感謝と愛情をもつて、弱い心に鞭打ち、自分はどうすればよいのか、いつたい何ができるのかを考えながら、ただひたすら歩いて行こうと、ささめやさんの本を読み返しながら、思いました。

真夜中の仕事場で ひとりキャンバスや 紙にむかっていると  
深い色した虚空から ゆっくりゆっくり 精靈がおりてくるのが  
知覚できたのだ 目をつむって手をのばすと 月に届くような気もした  
ささめやゆき「ほんとうらしく うそらしく」より





細谷正之版画集

ささめやゆき

架空社

ミルクホールにて取り扱い中です

細谷正之  
ささめや  
ゆき  
書籍・画集



↑ 幻燈サーカス  
中澤 晶子・文  
ささめやゆき・絵  
(ガラス絵作品)

BL 出版  
2003 年  
¥1800

→ 神さまが...  
シンシア・ライラント  
訳・絵  
ささめやゆき  
偕成社  
2005 年 ¥1000



ほんとうらしく うそらしく



ささめやゆき

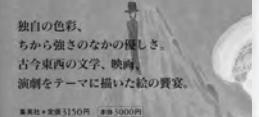
↑ 細谷正之  
版画集

架空社  
2003 年  
¥4200

← ほんとうらしく  
うそらしく  
エッセイ集  
文・絵  
ささめやゆき  
筑摩書房  
1996 年  
¥1500

プリキの音符  
片山令子・文  
ささめやゆき  
↓・絵 ¥2200

アーリキの音符  
片山令子・文  
ささめやゆき・絵



↑ ヘッセの夜 カミユの朝

すばる表紙絵 収録  
文・絵 ささめやゆき  
集英社  
2008 年 ¥3000

→ 十四分の一の月  
エッセイ集  
文・絵 ささめやゆき  
幻戯書房  
2009 年 ¥2900



← はだかのかエルと  
はだしのライオン  
絵本 ささめやゆき 作  
2007 年 講談社 ¥1400

↓ マルスさんとマダムマルス  
1997 年 原生林 ¥1400



細谷正之&ささめやゆき

1943年東京蒲田生まれ。東京大空襲により家焼失。群馬に疎開した後、神奈川県逗子に移転。24歳より独学で絵を描き始め、1970年よりパリ、ニューヨークなどを放浪し、1973年帰国。以来、細谷正之の名で版画、油絵を、ささめやゆきの名でイラストレーション、また装丁、執筆、など多彩な作品を発表。ガラス絵などの新しい手法の作品も手掛けている。出版した本も多数あり、エッセイは、「ほんとうらしく うそらしく」と「十四分の一の月」 鎌倉在住



伊万里・古陶磁  
和洋家具  
古民芸  
アンティーク

ミルクホール

骨董・ガラクタ市

# 蚤の市

4月のミルクホールの蚤の市は

4/16 Sat. 17 Sun.

朝11時 OPEN!

## ♠ 和洋家具

- ★★★大正時代ガラス水屋 2段
- ★★★大正時代水屋箪笥 1段もの
- ★★明治・大正時代小箪笥各種
- ★★昭和初期テーブル・デスク
- ★★明治～昭和文机各種
- ★★昭和初期窓いろいろ

## ♥ 古民芸

- ★★格子建具
- ★★漆お椀・茶托・御膳
- ★★明治道具箱・銭箱・樽など
- ★★蔵の取手・昔の金具
- ★常滑壺 ★越前壺

## ♣ 古陶磁

- ★★伊万里みじん唐草油壺
- ★★幕末伊万里そば猪口
- ★★明治錦絵七寸皿
- ★★明治銅版小皿
- ★★伊万里輪茶碗・そば猪口
- ★★吉伊万里皿・なます
- ★★大正色絵向付・猪口ほか

## ♦ アンティーク

- ★★★ベネチアンガラス人形
- ★★★フランス製50年代秤
- ★★★アメリカ製真鍮カレンダー
- ★★★昭和20年代目覚まし時計
- ★★ドアノブ・引き出し取っ手
- ★★大正・昭和初期ランプシェード



5月、6月の蚤の市の予定は・・

5/21 Sat. 22 Sun.

6/18 Sat. 19 Sun.

ミルクホールのアンティークは  
明治・大正時代の日本のものを中心に  
古き良き時代の暮らしの中で親しまれた品々を  
手ごろな価格で揃えています。  
中には意外な掘り出し物も…



## Information

### ミルクホールタイムス 総集編

#### 「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールタイムスを1986年の創刊号より、100号までまとめた総集編です。人気連載中の「鎌倉の猫事情」が第一話から第一部の終わりまで、他にガラクタ通信、ミルクホール30年の逸話など掲載しています。  
¥1500

### ミルクホールタイムス定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日に発行しています。  
定期購読お申し込みの方には、毎月25日郵送します。  
お申し込みは、当店か、ミルクホールHPにて。  
お葉書、FAX、メールなど、お待ちしています。  
年間購読料 ¥1500

